松浦淳介研究会

2022年度募集要項

# 1．本研究会の目的

本研究会では，主に現代日本における政治現象を対象として，理論的，実証的な研究を行います．現代日本政治分析は，政治学の一分野として，社会科学の理論やモデルの発展に寄与するのみならず，同時代の日本政治を深く理解し，またその行方を展望するうえでも，きわめて重要な意味を持っています．現代の日本政治は日本に暮らす人びとにとって，遠い過去の政治や他国の政治と比べて身近なものであるため，誰もが「評論家」として，持論を展開し得る対象といえますが，一方で，社会に溢れる政治評論の中には，単なる印象論や根拠を伴わない規範論が少なからず散見されます．

そこで，本研究会では，政治学的な観点から，日本政治に関する世間の「常識」を批判的に検討するとともに，主体的に政治現象を捉え，考察する能力を涵養します．また，単に政治学を「勉強」するだけでなく，自らオリジナルな「研究」を実践することを目指します．私自身は主に日本の国会を対象として，実証的な研究を行っていますが，それ以外にも，首相のリーダーシップや政官関係，地方政治など，日本政治全般に強い関心を持ち，知的好奇心に溢れた学生を，法学部以外からも広く募集します．

# 2．本研究会の活動

　本研究会では，「研究」の第一歩ともいえる卒業論文を念頭に置いて，入ゼミ当初から計画的に準備を進めます．具体的には，3年次において政治学の方法論に関するテキストを輪読し，政治学的な考え方や研究手法を学びます．そのうえで，ゼミ員同士で実際に共同研究を行い，その成果を三田祭論文にまとめます．4年次においては，先行研究を踏まえて，自身の研究計画を練り，夏休みの合宿などで中間報告を行います．秋学期には，卒業論文を完成させるだけでなく，学内の論文誌などへの掲載も目指します．

　その他，本研究会では，学内外の政治学系のゼミとの合同研究発表や学会での報告，実際の政治過程に深く関わるアクターに対するインタビューなども予定しています．

# 3．入ゼミについて

・募集予定人数

10～15名程度．

・入ゼミ課題

　①自己紹介書

これまでに最も力を入れてきたことや将来の方向性などを1,000字程度でまとめる．また，連絡先として，メールアドレスを明記する．

　②研究計画書

卒業論文を念頭に置いて，自身の研究テーマと研究計画を1,000字程度でまとめる．

　③書評論文

以下の図書の中からひとつを選び，その内容を簡潔にまとめたうえで，学術的な意義や課題について記述する．書式は自由であるが，分量は3,000字を目安とする．

　〈指定図書〉

飯尾潤『日本の統治構造―官僚内閣制から議院内閣制へ』中央公論新社，2007年．

大山礼子『日本の国会―審議する立法府へ』岩波書店，2011年．

辻陽『日本の地方議会―都市のジレンマ，消滅危機の町村』中央公論新社，2019年．

・締め切り

　2022年1月28日（金）　当日必着

・提出方法

　締切日までに①～③を以下に郵送する．なお，郵送にはレターパックや簡易書留など，「郵便追跡サービス」が付いているものを用いること．

　送付先：〒108-8345　東京都港区三田2-15-45

慶應義塾大学法学部　松浦淳介研究室

・問い合わせ

　松浦 淳介

E-mail: matsuura@law.keio.ac.jp

以上